

**【協議事項】令和7年度 地域公共交通確保維持
改善事業（地域間幹線系統及びフィーダー系統）
の事業評価について**

提出資料

地域間幹線系統

(朝日自動車(株) 五霞町役場
～令和橋～幸手駅)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名： 幸手市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
朝日自動車(株) 五霞町役場前～幸手駅	〔起点〕 五霞町役場前 〔主な経由地〕 令和橋 〔終点〕 幸手駅	①桜まつりが開催され、多くのお客様にご乗車いただいた。また、桜以外の季節の花を目当てにしたお客様にご乗車いただいた。②渋滞が発生し、定時運行に大きな影響が出た。③令和6年11月、五霞町のイベントに合わせて乗り方教室を実施した。④令和7年2月に橋梁架け替え工事に伴う迂回運行に合わせ、利用実態に合わせたダイヤ改正を実施した。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	B 輸送人員目標55,277人に対して実績は54,061人となり目標達成には至らなかった。未達理由として、橋梁架け替えに伴うルート変更により、元ルートの沿線の工場の従業員の利用が減少したため。	・桜まつり開催時は渋滞が発生するため、関係各所と連携しバスの定時性確保を図り利用増に繋げる。・バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起しを図る。・茨城県五霞町と協議し、抜本的な運行計画の見直しを行う。・スマホ定期券の販売促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月 日

協議会名：	幸手市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>路線バスは住民の日常生活を支える最も身近な公共交通機関であり、高齢化の進展や環境問題への対応が急がれる中で、その役割はますます大きくなっている。</p> <p>また、中心市街地から離れた住宅地に暮らす、車を運転できない高齢者や学生などにとって、バスは生活に必要不可欠な交通手段である。</p> <p>そのため、地域公共交通の存続が危ぶまれている地域において、生活交通路線として必要なバス路線の運行の維持確保を図る必要がある。</p>

令和7年度 幸手市（～茨城県五霞町）における地域公共交通確保維持改善事業

陸上交通
地域間幹線系統

協議会名・補助対象事業者名

幸手市地域公共交通会議
朝日自動車株式会社

系統名

五霞町役場前～令和橋～幸手駅

事業の目的・必要性

- 地域住民の日常生活に必要なバス路線の存続が危機に瀕している地域において、自家用車を自らが運転できない移動制約者等の交通手段を確保するため、広域行政圏の中心市町村へアクセスする路線に対し、地域公共交通確保維持事業による補助制度を活用し、路線の存続を図る。
- 幸手駅への通勤通学者の移動手段として必要である。

事業の概要・目標・効果

●路線名

五霞町役場前～令和橋～幸手駅線

●起点、経由地、終点

起点：五霞町役場前、経由地：令和橋、終点：幸手駅

●系統キロ

7.5 km

●運行回数等

13.5回

●目標・効果

生活交通として必要なバス路線を維持することによって、県民の最も身近な公共交通機関として重要な役割を担う乗り合いバスの充実を図る。当該事業の活用によりバス路線が維持確保されることとなり、事業対象期間中延べ55,277人（輸送人員ベース）の県民の移動手段の確保が見込まれる。

●利用促進・生産性向上の取り組み

①沿線観光地への利用促進 ②「スマホ定期券（定期）」の販売促進 ③桜まつり開催時の定時性確保 ④「バスの乗り方教室」の開催

●直近3ヶ年の推移

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
輸送人員(人)	49,743	57,820	54,061
経常収支(千円)			
収支率(%)			
平均乗車密度(人)	2.0	2.1	2.2
補助金額(千円)	544.5	565.5	779.0

目標・効果の達成状況

【達成状況】

輸送人員の目標55,277人に対して実績は54,061人となり目標達成には至らなかった。

【目標を達成できた要因(分析)】

橋梁架け替えに伴うルート変更により、元ルートの沿線の工場の従業員の利用が減少したことが理由と考えられる。

今後の改善点

- ・桜まつり開催時は渋滞が発生するため、関係各所と連携しバスの定時性確保を図り利用増に繋げる。
- ・バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起しを図る。
- ・茨城県五霞町と協議し、抜本的な運行計画の見直しを行う。
- ・スマホ定期券の販売促進を図る。

事業実施区域

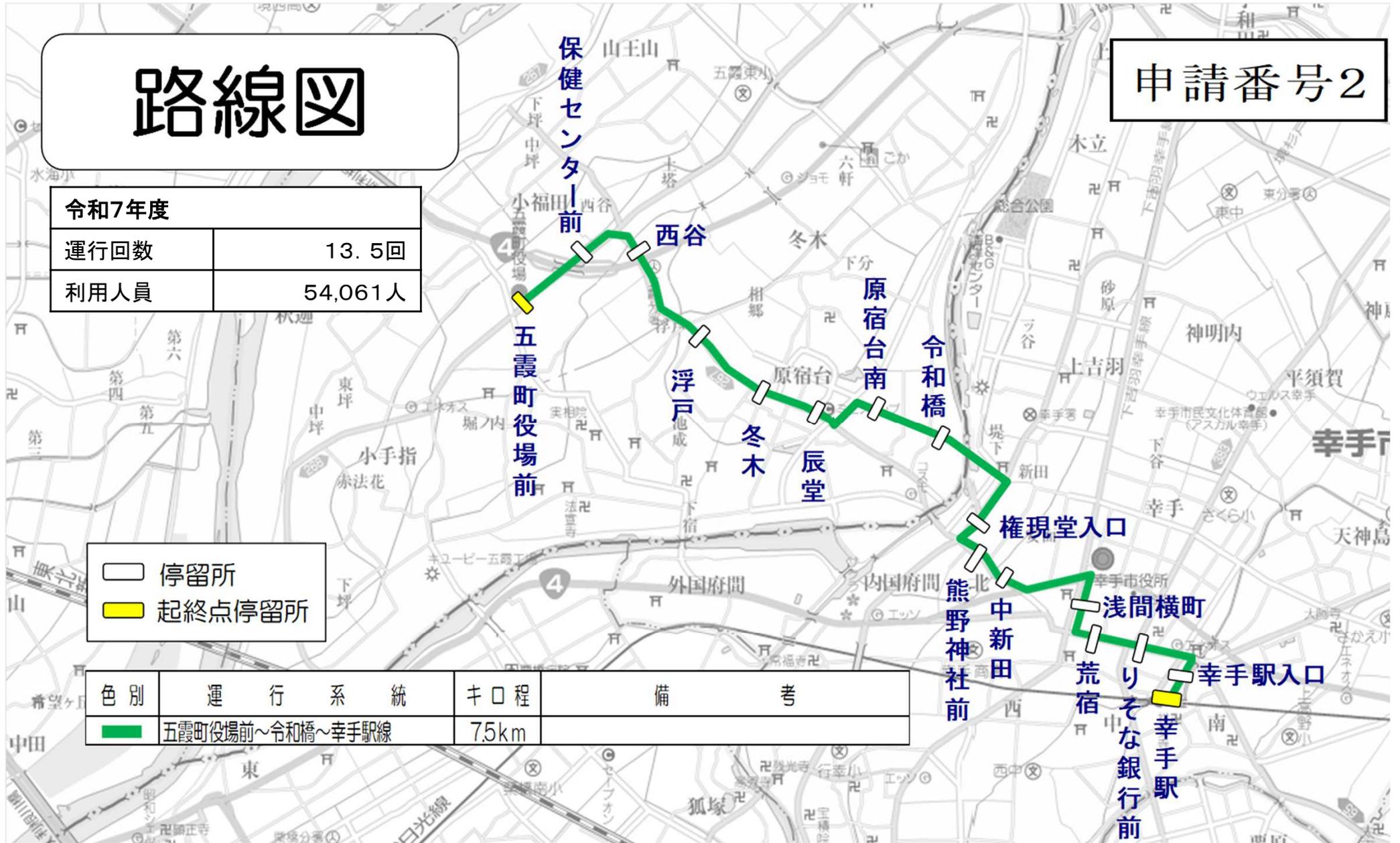
路線図

申請番号2

令和7年度	
運行回数	13.5回
利用人員	54,061人

- 停留所
- 起終点停留所

色別	運行系統	キロ程	備考
	五霞町役場前～令和橋～幸手駅線	7.5km	



地域内フィーダー系統 (幸手市市内循環バス)

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名: 幸手市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
中田商会株式会社	<p>コミュニティバス 「幸手市市内循環バス」 系統:中央コース(11.6km) 東Aコース(20.6km) 東Bコース(17.8km) 西Aコース(18km) 西Bコース(12.4km) 運行回数:(中央)8便/日 (東A・東B・西A・西B)各4便/日 運賃:1乗車(大人)200円 ※1日乗車券、割引運賃あり</p>	<p>「引き続き、利便性の向上を図り、現行のコース設定の見直しや検討を行い改善に努められたい」との評価を受け、増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支える足となる公共交通網を確保するという目的のもと、目標達成に向けて市内循環バスの利用者増を図るため、下記のとおり取組を実施した。</p> <p>①ナビタイム、ジョルダンにおける市内循環バスのインターネット検索環境の提供 ②民間路線バスとの乗継円滑化を図るため、停留所相互への案内表示 ③1日乗車券を利用した杉戸町町内巡回バスとの相互乗換の実施 ④期間中(R6.12.16～12.21)はどなたでも無料で乗ることができる、市内循環バス無料乗車キャンペーン(乗り乗りWeek)の実施 ⑤市民検討会の開催</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【令和7年度目標1:年間利用者数】 (目標)令和5年度実績値(25,130人)を上回る(実績)31,533人 【令和7年度目標2:収支率】 (目標)令和5年度実績値(7.4%)を上回る(実績)9.4% 令和7年度は、無料乗車キャンペーンや市民まつりでの車両展示などを実施し、促進の取組を行った結果、増加基調を維持し、目標を達成することができたものと考えている。 引き続き、一人でも多くの市民に循環バスを利用していただくことで、市民の通院や買い物等の日常生活を支える移動手段を確保するという役割は果たしていく。	<p>東西コースの利用者数の伸び悩みは依然として課題となっている。 令和8年度事業では、市民まつりにおいて、循環バス車両の展示を実施し循環バスの更なる周知、利用促進の取組を継続している。 また、利用実績、市民アンケートや市民検討会の意見を踏まえ、市内循環バスの再編を行っている。利用ニーズの高い中央コースについては利便性を向上させ、利用者数の増加を図る。利用ニーズが低い東西コースについては、運行形態を変更しAIデマンド交通を導入し、地域の特性に合わせた運行を目指す。</p>

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月 日

協議会名：	幸手市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>増加する高齢者や、運転免許証返納により地域公共交通を利用せざる得ない人への対応が課題となる中、市内外へ移動や、買い物・通院等、市民の日常生活を支える交通手段を確保する。</p> <p>本市では平成27年10月からデマンド交通を運行してきたが、市で運行する公共交通の利便性及び効率性を高めるため、市民アンケート等を実施し、その結果を踏まえて、令和4年1月から市内循環バスの運行を開始した。</p> <p>市内循環バスの運行に当たっては、補助対象地域間幹線系統(朝日自動車五霞町役場～幸手駅線)との接続を確保し、利用者のための停留所相互の案内等、乗継を円滑化するべく利用案内を見える化することで、地域公共交通の利便性向上を図っている。</p> <p>また、市内循環バスは、中心市街地に点在している日常生活に必要な病院、商業施設、公共施設等を循環する中央コース1系統と、東西地域からのアクセスを可能するための4系統を加えた5系統を運行することで、多くの市民の日常生活を支える交通手段とすることを目指す。</p>

令和7年度幸手市地域公共交通会議（埼玉県幸手市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題／補助対象系統の位置付け

幸手市は、国道4号を中心に市街地を構成し、商業施設については国道4号沿いに集中している。一方で居住地や公共施設は郊外にも点在している。

本市の公共交通としては、鉄道、路線バス、タクシーが挙げられ、路線バスについては、東武日光線幸手駅をはじめ、鉄道駅へと接続する路線が市内・市外を通り放射状に延びている。

増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支える交通手段を確保していくことが課題である。

補助対象系統の需要・現況・課題／活用したデータ

増加する高齢者や、運転免許証返納により地域公共交通を利用せざるを得ない人への対応が課題となる中、市内外への移動や、買い物・通院等、市民の日常生活を支える交通手段を確保する。

また、都市環境・生活環境に適応した持続可能な公共交通体系の構築を目指し、あらゆる施策を検討していく。

定量的な目標

【令和7年度目標1：年間利用者数】

（目標）令和5年度実績値（25,130人）を上回る
（実績）31,533人

【令和7年度目標2：収支率】

（目標）令和5年度実績値（7.4%）を上回る
（実績）9.4%

状況／来年度に向けた取組の検討

中央コースの利用者数は、増加傾向にあり全体の利用者数の8割を占める。一方で、東西コースの利用者数は運行開始当初から少ない状況が続いている。

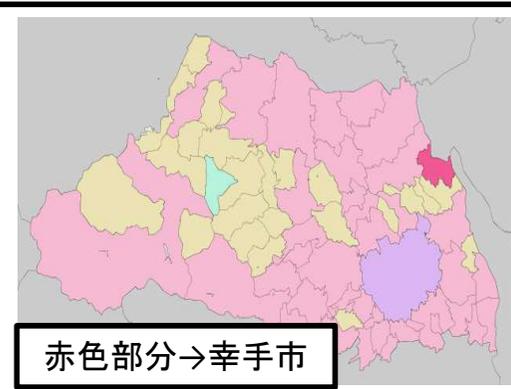
令和8年度事業においても、引き続き、市民まつりにおいて、循環バス車両の展示を実施し循環バスの周知、利用促進の取組を継続して実施している。

なお、現行の循環バス運行満了に合わせて、利用実績、市民アンケートや市民検討会の意見を踏まえ、循環バスの再編を行っている。利用ニーズの高い中央コースについては、利便性を向上させ、利用者数の増加を図っていく。

アピールポイント

市内循環バスの利用促進を図るため、下記の取組を実施。

- ①ナビタイム、ジョルダンにおける市内循環バスのインターネット検索環境の提供
- ②民間路線バスとの乗継円滑化を図るため、停留所相互への案内表示
- ③1日乗車券を利用した杉戸町町内巡回バスとの相互乗換の実施
- ④期間中（R6.12.16～12.21）はどなたでも無料で乗ることができる、市内循環バス無料乗車キャンペーン（乗り乗りWeek）の実施
- ⑤幸手市地域公共交通あり方検討会（市民検討会）の開催



赤色部分→幸手市

面積	33.93km ²
人口（R7.4.1時点）	48,630人
15歳未満	4,318人
65歳以上	17,456人
高齢化率	35.9%

交通計画の計画期間

令和6年4月～令和11年3月

協議会開催状況

（令和7事業年度に係るもの）
・令和6年度第1回（令和6年6月19日）
（書面開催）
R7年度地域間幹線事業及びフィーダー事業に係る計画を協議
・令和6年度第3回（令和6年9月24日）
幸手駅～五霞町役場線上船渡橋架け替えによる経路変更について協議
・令和6年度第3回（令和7年1月22日）
（書面開催）
令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・地域公共交通計画変更について協議
・令和7年度第4回（令和8年1月21日）
（書面開催）
R7年度地域間幹線事業及びフィーダー事業評価について協議